

2019年3月17日(日)朝10:10～
3月第3共同主日礼拝式説教

主の復活前第5、自由交歓会等
日本アライアンス庄原基督教会

説教題：隠れた所での父への祈り

聖書：マタイ 6章5～8節

<口語訳>

新約聖書8頁

マタイ 6章5～8節

<新共同訳>

新約聖書9頁

マタイ 6章5～8節

<新改訳第3版>

新約聖書9頁

マタイ 6章1～4節<塚本訳>

新約聖書80～81頁

主題：主イエス様から賜った聖霊の導き

によって主の弟子たちは、主の名による
神の罪からの救いを宣べ伝えたように、
私たちも、福音を伝えたい。

序論；

- ◇**マタイ書**は、使徒**マタイ**が、ユダヤ人の立場で**王なる救い主(メシヤ)**なる**神の御子イエス・キリスト**を証言した記録です。
- ◇**マタイ5～7章**は、**神の御子イエス・キリスト様**の山上の垂訓あるいは説教と表現される箇所です。
- ◇本日は、**マタイ6章5～8節**も、**マタイ5章**の続きで、**神の御子イエス・キリスト様**を祝福のことば全体の中で理解したいとの思いで、「**施し**」(6:1～4)、「**祈り**」(5～6)、「**断食**」(16～18)のユダヤ人の3大善行)を見たい、次は、「**祈り**」で、①「**隠れた所での父なる神への祈り**」(6:6)と②「**主の祈り**」に注目しました。
- ⇒「**神の幸い・祝福**」、「**迫害の中の神信仰**」に続く「**天の父の心の目**」に「**神の御子イエス・キリスト様**」は、注目しておられるのです。
- ⇒「**御子イエス・キリスト様**」は、ユダヤ人の善行の背後にある「**偽善**」を見抜いておられます。「**施し**」(6:1～4)同様、「**祈り**」(5～6)も、「**隠れた所での祈り**」が大事な鍵のことばになっています。

本論；

◇本日、**マタイ書6章5～8節**から主の**使信**に
思い・心をとめます。

◆**マタイ6章5～8節**；使徒**マタイ**は、**神の御子**
イエス・キリスト様の「**隠れた所での祈りを**
隠れた所におられる父なる神にする」の
ことばを語っています。

◇5～15節；塚本訳◆**祈りについて**

「5 また祈る時には、偽善者のようにしてはなら
ない。彼らは人に見せようとして、礼拝堂や
大通りの角に立って祈ることを好むのである。
アーメン、わたしは言う、彼らは(褒められた
時、)すでに褒美をもらっている。

6 あなたが祈る時には、『奥座敷に入り、部屋を
しめきった上で、『隠れた所においでになる
あなたの父上に『祈れ。』そうすれば、隠れた
ことを見ておられるあなたの父上は、褒美を
くださるであろう。

7 また祈るとき、異教人のようにベラベラしゃべ
るな。彼らは口数が多ければ、聞いてもらえる
ものと思っている。

8 彼らの真似をしてはならない。神はあなた達

の父上である。求める前から、あなた達に必要なものをよく御承知である。」と、使徒マタイは語っています。

- ◇5～6節；「祈る時には、偽善者のようにはならない。彼らは人に見せようとして、礼拝堂や大通りの角に立って祈ることを好むのである。アーメン、わたしは言う、彼らは(褒められた時、)すでに褒美をもらっている」、「あなたが祈る時には、『奥座敷に入り、部屋をしめきった上で、『隠れた所においでになるあなたの父上に『祈れ。』そうすれば、隠れたことを見ておられるあなたの父上は、褒美をくださる』(5)、「あなたが祈る時には、『奥座敷に入り、部屋をしめきった上で、『隠れた所においでになるあなたの父上に『祈れ。』そうすれば、隠れたことを見ておられるあなたの父上は、褒美をくださる』と、「御子イエス・キリスト様」は、「隠れた所での父なる神への祈り」を先ず、弟子に求められました。
- ⇒「隠れた所・奥まった所」は、「倉や納屋」を意味します。密室というより、日常の生活の場でした。

⇒すなわち、「**隠れた所での父なる神への祈り**」は、「**神の心に向かって祈る**」ことを言い、特定の場所を定めることではありません。「**礼拝堂**や**大通りの角**」は、ユダヤ人指導者が好んで用いて場所で、当初は人々に模範を示すためだったのでしょうが、段々見せる「**祈り**」になり、「**御子イエス・キリスト様**」から「**偽善者の祈り**」と、皮肉られるものとなったのです。

⇒私も、男性3人で、ブラジルへ行く時、不安で、羽田の空港広場で祈り合いました。それを見た旅の人も祈りに加わって、一時の祈り会になったのを思い出します。見栄ではなく、必死の祈りでした。

◇7～8節；「**祈るとき、異教人のようにベラベラしゃべるな。彼らは口数が多いければ、聞いてもらえるものと思っている**」、併し「**彼らの真似をしてはならない**」、「**神はあなた達の父上である。求める前から、あなた達に必要なものをよく御承知である**」と、「**御子イエス・キリスト様**」は、「**神はあなた達の父上で、求める前から、あなた達に必要なものを御承知**」と、「**祈り**」が、多弁でなく、「**神の信頼**」であると。

⇒**OA師**は、7、8節を「**主の祈り**」の導入部分に加えておられ、「**くだくと、ベラベラ**」を「べらべら調子」でしゃべるな、と仰せで、「**神への呼びかけ**」が大事だということを主は教えておられると。

⇒「**主の祈り**」は、単純でありつつも、明解です。

⇒「**御子イエス・キリスト様**」は、「**主の祈り**」を通して、**神**を知らない異邦人ではなく、**神**を認め、**神**を信じて祈る真実の異邦人をお求めになったのです。弟子たちは、ユダヤ人でしたが、「みこころが天になるごとく地もなされますように」と告白できる真実の弟子にされる点では、異邦人も、ユダヤ人も、同じです。

⇒「ただ、罪を知る人、自分の悲しさを見た人にとっては、それももう一つの「人の目」を意識しているにすぎないのです。自分の良心の満足という、「人からほめられようと」して純粹がっているにすぎない。そのことに気づきます。その「良心」だとか「善それ自体」などというものは、それほどありがたいものなのではないでしょうか。

結局、自己の罪を見た者は、やはりイエスの言い方しかないと知ります。神に喜んでいただく、隠れたことを見ておられる父に心の焦点を絞る、天の父に報いていただく。そこにだけ、動かぬ確かなもの、人生のただ一つの意味、永遠に変わらぬ意味がある。そのことを謙遜に知るのは、**OA師**は語っておられます。

⇒先週同様、焦点を絞って、人の目色を見ず、神を相手の人生を生きよ、とういことなのです。

結論；

- ◇**神**は、変わらない愛と思いやりの神です。
- ◇**マタイ書**は、**使徒マタイ**が、**ユダヤ人**の立場で**王なる救い主(メシヤ)**なる**神の御子イエス・キリスト**を証言した記録です。
- ◇**マタイ5～7章**は、**神の御子イエス・キリスト様**の**山上の垂訓**あるいは**説教**と表現される箇所です。
- ◇本日は、**マタイ6章5～8節**も、**マタイ5章**の続きで、**神の御子イエス・キリスト様**を祝福のことば全体の中で理解したいとの思いで、「**施し**」(6:1～4)、「**祈り**」(5～6)、「**断食**」(16～18)のユダヤ人の3大善行)を見たい、次は、「**祈り**」で、①「**隠れた所での父なる神への祈り**」(6:6)と②「**主の祈り**」に注目しました。
- ⇒「**神の幸い・祝福**」、「**迫害の中の神信仰**」に続く「**天の父の心の目**」に「**神の御子イエス・キリスト様**」は、注目しておられるのです。
- ⇒「**御子イエス・キリスト様**」は、ユダヤ人の善行の背後にある「**偽善**」を見抜いておられます。「**施し**」(6:1～4)同様、「**祈り**」(5～6)も、「**隠れた所での祈り**」が大事な鍵のことばです。

⇒「**あなたが祈るときには、奥まった自分の部屋に入って、戸を閉め、隠れたところのおられる父に祈りなさい。そうすれば、隠れたところを見ておられるあなたの父は報いてくださる。**」と**御子イエス・キリスト様**は言われ、結局、自己の罪を見た者は、やはりイエスの言い方しかないことを知ります。神に喜んでいただく、隠れたことを見ておられる父に心の焦点を絞る、天の父に報いていただく。そこにだけ、動かぬ確かなもの、人生のただ一つの意味、永遠に変わらぬ意味がある。そのことを謙遜に知るのです。」と、**OA師**は語っておられます。

⇒「**主の祈り**」も、**御子イエス・キリスト様**の弟子として、「あなたがたの父は、願う前から、あなたがたに必要なものをご存じなのだ」、「だから、こう祈りなさい」(9)と、**御子イエス・キリスト様**が教えて下さったものです。

⇒先週同様、焦点を絞って、人の目色を見ず、神を相手の人生を生きよ、とういことなのです。